

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 12 月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100165		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい段原		
所在地	〒732-0819 広島市南区段原山崎3丁目6-1 (電話) 082-510-5588		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人が運営している特性上、医療との連携が取りやすく、ご利用者が安心して生活できるよう支援をさせていただいております。各担当者が毎月、ご利用者やご家族にモニタリングを行い情報の収集・共有を行うことで常にケアを見直し、質の高いケアを実行できるように努めています。また、ご利用者の体調の変化に合わせ医療職に相談出来る機会を設けることで人生の最後に向けて、ご本人やご家族が「この施設に入って良かった」と思えるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念のもとで「その人らしい生活」「尊厳を守られた生活」を全職員が共通の思いで毎日のケアに取り組んでいる。利用者の思いに傾聴して全職員が情報共有し、その思いに寄り添った言葉掛けを行い、してきた事、出来そうな事を介護計画の目標とし、職員がサポートする事で利用者感動や笑顔溢れる支援をしている。家族には電話やホーム便りを送付する事で日頃の様子や近況報告をしている。コロナ禍で外出が困難な中で工夫をしながら事業所内で出来る行事や散歩、花見、紅葉狩りなど季節を感じる取り組みをしている。訪問診療、訪問看護による24時間連携体制も整え、職員も看取り研修で知識を習得し、家族・利用者が安らかに最期を迎える事が出来るよう温かみのある支援を実践している。

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療法人好縁会経営理念及び好縁会生活作り10か条を主軸に、管理者と職員はその意図とするところを共有し、実践に繋いでいる。朝礼時は経営理念と挨拶の基本用語を全員で唱和し、一日の目標を立て、サービスを提供している。	朝礼時、経営理念、基本用語を唱和し、意識づけを行い、職員個々に毎日の目標を立て取り組んでいる。接遇向上委員会、ミーティング等を通じて振り返りを行い、日々ケアの向上に努め実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会している。こちらから積極的に挨拶をし地域の方々との接点を持つよう心掛けている。コロナウイルス感染症流行以前は、町内清掃等に参加していたが現在はそういった機会が中止となり無くなっている。	町内会に加入し、町内清掃活動や町内会の祭りなど地域との交流があったがコロナ禍で出来ていない。回覧板の回覧や事業所周辺の散歩の時の挨拶など、日常的にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事には積極的に参加し、ご利用者と地域が関わりをもてる機会を大切にしている。現在は、地域の行事が中止となっており交流の機会が無くなっている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。また、ご利用者様日常の様子を写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見、要望は真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。	町内会会長、老人会会長、地域住民、地域包括支援センター職員、家族代表などに行事や活動、事故報告など資料を事前に送付し、意見をもらい取りまとめ書面にて実施している。看取りに関して質問やコロナワクチン接種についての意見などがあり、今後の取り組みの反映に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へのご案内を毎回送らせて頂いているが、参加にはいたっておらずサービスをご理解していただく機会もっていないのが現状である。	市主催の研修や運営推進会議議事録を送付している。地域包括支援センター職員とは事業所の報告や情報意見交換など協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、意識の徹底と周知に取り組んでいる。身体拘束禁止委員会や、事業所内研修も実施している。	法人の接遇向上委員会研修や事業所内の研修で知識を深め、職員間で共有し毎日の目標や日頃から利用者に寄り添う声掛けで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が行う行動に対して、それぞれの思いを尊重し、行動に寄り添い、本人本位のケアを実施する事で身体拘束防止に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について、研修に参加し内容を周知している。マニュアルも再確認するよう伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、権利擁護について、まず管理者及び介護支援専門員が理解するとともに個別の案件において、適切な援助ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者、家族に契約時きちんと説明している。変更が生じた場合も、速やかにお知らせをし、不安や疑問点がある場合にはご理解が頂けるよう説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営等に関する質問や意見をお電話いただき返答している。その際の意見の反映ができるよう努めている。またその内容を職員全員に周知している。以前は、家族会を開催していたがコロナ禍の影響で中止している。	オンライン面会や電話、ホーム便りで日頃の様子を伝える事で意見や要望を聞く機会を設けている。意見や要望を申し送りノートやミーティングで共有し、外出困難な中で新型コロナウイルス感染症予防対策をとり、紅葉狩りを実現している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、その都度話し合っている。	仕事のやりがいや生きがいを感じられる職場にする為にミーティングや個人面談を通じて、利用者のケア方法や備品の購入、資格制度など意見やアイデアが出しやすい環境作りの実践に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標(目標設定・評価シート)を作成し、目標達成に取り組んでいる。それを用いて、各職員の努力や実績を評価している。個人面談を行い進捗状況に合わせた課題を出し向上に向けたアドバイス、不安や悩みがないかなどのケアも行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に教育研修部があり、法人内研修が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。新入職員には、OJT制度を活用し、統一した指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内では、営業報告会にて、毎月、全事業所の管理者が顔を合わせている。各研修を通して、他事業所の職員と交流を持っている。コロナ禍によりイベントが無くなり他法人との交流の機会が無くなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に事前面談で管理者、看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作りに取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。ホームでの様子を写真入りのお手紙と記録におさめ、毎月送らせて頂くと共に月末にはお電話又はメールにてモニタリングを行うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当ケアマネまたは職員と協力連携を取り、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へと繋いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切にしてくれるよう努めている。より添い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え支援している。外出などのご協力もいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。遠方からの面会者やご要望に応じて、一緒に撮った写真を送り、喜んで頂いている。	利用開始時に利用者・家族に情報を確認し、人や場との関係継続に努めている。ベランダからの面会やガラス越しの面会、手紙のやりとりなど、又、利用してから散歩中の風景や近隣の方との挨拶など、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。また、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去されたご利用者のご家族が施設に来所されたりお手紙を頂いたり、またこちらからもお便りを送るなど、サービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、ご本人の思いを十分に聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。ご本人の今までの生活習慣に近づけるよう情報を収集し、コロナ禍以前は馴染みの場所への個別外出支援も行っていた。	担当職員の細かな情報や思いや意向の表出が困難な利用者には家族からの情報や日頃の様子や表情や仕草などから把握している。申し送りノート、日常生活記録からの情報を職員間で共有し、利用者本位に寄り添う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、計画作成担当者が基本情報、アセスメントを作成・活用し、各職員に共有しほぼ把握できている。生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録に記録している毎日の様子を全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。各担当と意見やアイデアを出し合い、検討後、計画作成している。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。</p>	<p>アセスメントや利用者、家族の意見や要望を聞き取り課題や趣味など出来そうなことを目標にし、多職種の意見やアイデアが反映した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態変化に伴い必要であれば見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、外泊時など突発的な出来事が発生した場合や、送迎を含む柔軟なサービスを展開している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍以前はボランティアの方を招いていたが今は、中止している。南消防所からは消防・避難訓練を実施して頂き、指導・アドバイスを受けている。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックを主治医にしている。入院時も他院と連携をとり、双方でご利用者にとってよりよい支援を検討している。</p>	<p>契約時かかりつけ医の希望を聞いている。殆どの利用者が運営母体のクリニックをかかりつけ医にしている。月2回の訪問診療、歯科、皮膚科の往診、事業所施設1階に併設する訪問看護との連携など、適切な医療が受けられるよう支援している。24時間連携体制など緊急時の対応も整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>2週に1度の医療連携と2週に1度の訪問診療で健康管理が行われている。また24時間いつでも連絡が取れる体制になっており、訪問看護も対応して下さる。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には安心して入院生活を送っていただけるよう、また早期の退院に向けご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり連携に努めている。入院実績のある病院からもご協力頂き関係づくりは良好と思われる。救急時にもスムーズな受け入れで対応して頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認をさせて頂いている。本人とも可能な限り早期に話し合いの場を持つようにしているが、判断決定には及んでいない。対象の方にはどのように支援していくのか、職員は状況を把握・共有し、チーム支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に終末期の指針、方針を説明し書面にて確認している。その後も利用者の気持ちの確認が出来る時に確認をしている。職員も法人看取り研修で知識を深め、その人らしく、心穏やかに過ごせるよう医療機関、多職種で方向性を定め、情報共有し、終末期ケアに取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>救命講習に参加、研修を受けるなどし、急変時の実践・対応へとつないでいる。緊急時の対応マニュアルを備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>グループホーム内での災害時避難訓練は定期的に行われている。運営推進会議を通し、防災・災害時の対策について、地域との協力体制を築いている。消防署員からの研修も受けている。</p>	<p>災害時避難訓練をしている。実際に消火器を使用しての消火訓練をしている。運営推進会議を通じて災害時の協力体制も築いている。災害時に備えて、水、食料品の備蓄をはじめ、停電時の照明器やカセットコンロ、カセットボンベなども有事に備え整備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。ご利用者には、敬語で丁寧に接し、自尊心を大切にしたい関わりを実践している。	研修や接遇向上委員会で一人ひとりの人格や尊厳を守り、敬う気持ちを忘れず丁寧な言葉かけや職員間でサポートしながら温かみのある支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的環境の両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしたい、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。ご本人の思いを汲み取り、寄り添いのケアに力を入れている。起床、就寝、食事、入浴等、個別に支援し、それぞれの生活スタイルを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度訪問理美容が入っておりその方の好みの整容がされている。面会時にもおしゃれをして会って頂き、ご家族にも喜んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	おかずの盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂く事もある。食事時は楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。	業者から栄養バランスを考慮した副菜が届き、温め、配膳している。利用者の状態に応じて食事形態の対応をしている。行事食としておせち、ちらし寿司、花見弁当、誕生日にはケーキを提供している。	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食材宅配サービス業者の管理栄養士が考案したメニューの食事を作り提供している。食が進まない入居者様にはご本人様の食べたい物・飲みたい物を見つけ、提供している。水分摂取の重要性について、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科より、口腔ケアに係る技術的助言や指導を受けている。それを元に、口腔ケア・マネジメントに係る計画を立て、実践している。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンや習慣を把握し、表情の変化にも気が付けるように配慮している。基本的におむつを使用せず、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。トイレの場所をわかりやすくする等工夫し、自立支援も行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握し、表情や仕草で声掛け誘導、又、トイレの場所を分かりやすく表示し、自立に向けての支援に取り組んでいる。トイレ内は前傾姿勢が保てるテーブルや足台を設置し、トイレで座位にて排泄支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師と連携をはかり、便秘の予防、対応、対策を行っている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>可能な限り、希望に添った入浴の支援に努めている。</p>	<p>週2~3回体調や気分など希望に添った柔軟な対応をしている。入浴拒否の利用者は、声掛け誘導で入浴出来た職員の成功例を職員間で情報共有し、全職員が出来るよう取り組んでいる。入浴の際、身体や皮膚状態の確認を行い、入浴後には保湿剤を塗布している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居前の生活スタイルを崩さないよう、起床時間をご本人様の要望に合わせて、日中は体調に合わせて、居室で休んでいただけるよう支援している。夜間しっかりと休んでいただくため、居室の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は内服薬リスト・薬一覧表などを活用して状況をほぼ把握している。職員間での連携を密にとり、症状の変化を見逃さないようにしている。服薬管理には意識の徹底を図り、慎重な対応をしている。医療との連携は密に行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	習字、歌を歌うこと、編み物など、入居以前にされていた趣味や得意だったことをご本人やご家族からお聞きし、入居後も継続してできるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は外の花壇の花を見に行ったり、公園へお散歩に出かける支援をしている。	散歩や花壇の草取り、新型コロナウイルス感染症予防対策を取っての花見や車窓からの紅葉狩りを行っている。事業所内で出来る秋の味覚祭りには昼食にまつたけご飯、豚汁、かぼちゃのサラダを作り、秋を満喫し楽しむなど、制限のある情勢下においても外出し楽しめる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要に応じて買い物に行き、支払っていただくが、ご利用者の必要品は全て立替購入とさせていただいており、基本的にお金は所持していない。		

自己評価	外部評価	項目(もみじ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。手紙の返事を書くよう促したりもしている。コロナ禍の間テレビ電話にて面会を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感のある掲示物を掲示している。カレンダーは日めくりにして日付がわかりやすいようにしている。馴染みの空間作りができるように、利用者様が使うものや家具の配置をあまり変えないようにしている。</p>	<p>フローには日めくりカレンダーが掲示され、日時を分かりやすくしている。机や椅子の高さ、新型コロナウイルス感染症予防対策の為、机の配置にも配慮している。ソファ席でテレビを鑑賞するなど、思い思いのペースで意心地よく過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりのお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。また、ご利用者の希望により家具や席の配置を変更することもある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内の家具や持ち物はご本人の使い慣れた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>自宅で使い慣れた、馴染みの物、仏壇や家族写真、ぬいぐるみなど持参し、家族と話しながら環境整備している。掃除や天気の良い日には布団を干すなど、意心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室に目印をつけ、わかりやすくしている。ご利用者が使うものの配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。浴室は浴槽の配置を変えることで、利用者様一人ひとりに合った入浴方法にしている。</p>		

V アウトカム項目(もみじ) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	医療法人好縁会経営理念を主軸に、管理者と職員はその意図とするところを共有し、実践に繋いでいる。朝礼時は経営理念と挨拶の基本用語を全員で唱和し、一日の目標を立て、サービスを提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会している。こちらから積極的に挨拶をし地域の方々との接点を持つよう心掛けている。 コロナウイルス感染症流行以前は、町内清掃等に参加していたが現在はそういった機会が中止となり無くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の行事には積極的に参加し、ご利用者と地域が関わりをもてる機会を大切にしている。現在は、地域の行事が中止となっており交流の機会が無くなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、事業所の状況やサービスの実際を伝えている。また、ご利用者様日常の様子を写真を見ていただき、参加者との話し合いの機会を設けている。ご意見、要望は真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へのご案内を毎回送らせて頂いているが、参加にはいたっておらずサービスをご理解していただく機会もっていないのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、意識の徹底と周知に取り組んでいる。身体拘束禁止委員会や、事業所内研修も実施している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止について、研修に参加し内容を周知している。マニュアルも再確認するよう伝えている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用されている入居者様がおられ、権利擁護について、まず管理者及び介護支援専門員が理解するとともに個別の案件において、適切な援助ができるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に基づいて、入居者、家族に契約時きちんと説明している。変更が生じた場合も、速やかにお知らせをし、不安や疑問点がある場合にはご理解が頂けるよう説明をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営等に関する質問や意見をお電話いただき返答している。その際の意見の反映ができるよう努めている。またその内容を職員全員に周知している。以前は、家族会を開催していたがコロナ禍の影響で中止している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度各フロアでミーティングを行い、業務に関する意見や改善点を話し合い、全職員で共有している。また、参加できない職員については、疑問点や意見をあらかじめ提出してもらい、ミーティングで話し合う仕組みにしている。ミーティング以外でも気づいた事があれば、その都度話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員が年度目標（目標設定・評価シート）を作成し、目標達成に取り組んでいる。それを用いて、各職員の努力や実績を評価している。個人面談を行い進捗状況に合わせた課題を出し向上に向けたアドバイス、不安や悩みがないかなどのケアも行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に教育研修部があり、法人内研修が頻繁に行われている。外部研修に関しても、研修費補助や勤務内研修が認められ、参加しやすい体制が整っている。新入職員には、OJT制度を活用し、統一した指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内では、営業報告会にて、毎月、全事業所の管理者が顔を合わせている。各研修を通して、他事業所の職員と交流を持っている。コロナ禍によりイベントが無くなり他法人との交流の機会が無くなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に事前面談で管理者、看護師が訪問し、関係作りを開始している。可能な限りご本人の不安や思いを伺い、少しでも不安を取り除けるよう努めている。担当職員を中心に全職員で関係作りに取り組み、安心感の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安やご要望など十分に話を伺い、誠意を持って受け止め、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。ホームでの様子を写真入りのお手紙と記録におさめ、毎月送らせて頂くと共に月末にはお電話又はメールにてモニタリングを行うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当ケアマネまたは職員と協力連携をとり、他のサービス利用情報も可能な限りお知らせできるように努めている。アセスメント表を活用し、まず必要とされるサービスの見極めを行い、本人・ご家族との合意の上、支援へと繋いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な限り共に過ごし、主体性のあるその人らしい時間を大切にしてくれるよう努めている。より添い共にある馴染みの関係を目指し、安全・安心の生活ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の体調や様子を細かくお伝えし、ご家族の不安や心配ごとを伺い、ケアの方向性を一緒に考え支援している。外出などのご協力もいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方が来所された時には、話しやすい雰囲気を作ったり、会話の橋渡しをしている。遠方からの面会者やご要望に応じて、一緒に撮った写真を送り、喜んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の席は利用者様同士の相性や話しやすさを考えて配置し、食事以外の時間にも孤立を防ぐため、家具の配置などリビングの環境に配慮している。また、より良い人間関係作りのため、職員がコミュニケーションの間に入り意思疎通の手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去されたご利用者のご家族が施設に来所されたりお手紙を頂いたり、またこちらからもお便りを送るなど、サービスが終了してもこれまでの関係性を保てる環境を作っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各担当者が中心となって、ご本人の思いを十分に聞き出せるよう努めている。ご本人が話された内容は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。ご本人の今までの生活習慣に近づけるよう情報を収集し、コロナ禍以前は馴染みの場所への個別外出支援も行っていた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供を基に、計画作成担当者が基本情報、アセスメントを作成・活用し、各職員に共有しほぼ把握できている。生活場面や本人とのコミュニケーションの中からの把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録に記録している毎日の様子を全職員が把握し、心身の状況の変化があれば、明確に分かるよう連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人やご家族と話し合いの上、課題抽出をし、目標を見据えたケアプランを立てている。各担当と意見やアイデアを出し合い、検討後、計画作成している。毎月モニタリングを行い、見直しをしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録を主な記録とし、心身状態の変化・プラン実施状況・生活状況・会話等を詳しく記録に残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外と思われるニーズに対しても可能な限り対応している。個別外出支援をはじめ、外泊時など突発的な出来事が発生した場合や、送迎を含む柔軟なサービスを展開している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍以前はボランティアの方を招いていたが今は、中止している。南消防所からは消防・避難訓練を実施して頂き、指導・アドバイスを受けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体のクリニックを主治医にしている。入院時も他院と連携をとり、双方でご利用者にとってよりよい支援を検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2週に1度の医療連携と2週に1度の訪問診療で健康管理が行われている。また24時間いつでも連絡が取れる体制になっており、訪問看護も対応して下さる。常時看護師と連携を図り、症状に合わせた適切な受診や看護を支援し、医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して入院生活を送っていただけるよう、また早期の退院に向けご本人、ご家族、医療関係者と話しあう機会をつくり連携に努めている。入院実績のある病院からもご協力頂き関係づくりは良好と思われる。救急時にもスムーズな受け入れで対応して頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期指針と称し、ご家族・主治医・関係者が話し合い、方針を共有し、書面にて事前確認をさせて頂いている。本人とも可能な限り早期に話し合いの場を持つようにしているが、判断決定には及んでいない。対象の方にはどのように支援していくのか、職員は状況を把握・共有し、チーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命講習に参加、研修を受けるなどし、急変時の実践・対応へとつないでいる。緊急時の対応マニュアルを備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホーム内での災害時避難訓練は定期的に行われている。運営推進会議を通し、防災・災害時の対策について、地域との協力体制を築いている。消防署員からの研修も受けている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭に置いた言葉かけや対応をしている。ご利用者には、敬語で丁寧に接し、自尊心を大切にした関わりを実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気作りを行い、コミュニケーションを図っている。その人らしい生活を支えるための知識・技術を学び、人的・物的環境の両面から自己決定ができるよう工夫を重ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限りその方の生活リズムやペースに添えるよう支援している。本人の思いを汲み取り、寄り添いのケアに力を入れている。起床、就寝、食事、入浴等、個別に支援し、それぞれの生活スタイルを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一度訪問理美容が入っておりその方の好みの整容がされている。いつでもご家族や友人に会ったり、外出できるように気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おかずの盛り付け、配膳・下膳、食器洗いを入居者様に手伝って頂く事もある。食事時は楽しい食卓の雰囲気作りをしている。また食事の時の座位やテーブルとの距離が適切になるよう細やかに支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材宅配サービス業者の管理栄養士が考案したメニューの食事を作り提供している。食が進まない入居者様にはご本人様の食べたい物・飲みたい物を見つけ、提供している。水分摂取の重要性について、全職員が理解し、適切な量を摂取できるよう取り組んでいる。栄養補助食品も導入し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科より、口腔ケアに係る技術的助言や指導を受けている。それを元に、口腔ケア・マネジメントに係る計画を立て、実践している。毎食後、入居者様の状態に合わせて口腔ケアの声かけ・介助を行っている。夜間は義歯をお預かりして義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンや習慣を把握し、表情の変化にも気が付けるように配慮している。基本的におむつを使用せず、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。トイレの場所をわかりやすくする等工夫し、自立支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師、看護師と連携をはかり、便秘の予防、対応、対策を行っている。食後のトイレ誘導や水分摂取への気配り他、適度な運動を取り入れて対策している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望に添った入浴の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居前の生活スタイルを崩さないよう、起床時間をご本人様の要望に合わせて、日中は体調に合わせて、居室で休んでいただけるよう支援している。夜間しっかりと休んでいただくため、居室の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は内服薬リスト・薬一覧表などを活用して状況をほぼ把握している。職員間での連携を密にとり、症状の変化を見逃さないようにしている。服薬管理には意識の徹底を図り、慎重な対応をしている。医療との連携は密に行われている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	習字、歌を歌うこと、編み物など、入居以前にされていた趣味や得意だったことをご本人やご家族からお聞きし、入居後も継続してできるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は外の花壇の花を見に行ったり、公園へお散歩に出かける支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要に応じて買い物に行き、支払っていただくが、ご利用者の必要品は全て立替購入とさせていただいており、基本的にお金は所持していない。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿って、電話をかけて頂いたり、取次ぎを行っている。手紙の返事を書くよう促したりもしている。コロナ禍の間テレビ電話にて面会を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある掲示物を掲示している。カレンダーは日めくりにして日付がわかりやすいようにしている。馴染みの空間作りができるように、利用者様が使うものや家具の配置をあまり変えないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりのお気に入りの場所があり、気の合う方と楽しく過ごせるよう家具の配置など工夫している。また、ご利用者の希望により家具や席の配置を変更することもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具や持ち物はご本人の使い慣れた馴染みの物をお持ちいただくようお願いし、なるべく以前のお住いに近い形で、安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや居室に目印をつけ、わかりやすくしている。ご利用者が使うものの配置を固定し、いつでも使用して頂けるようにしている。浴室は浴槽の配置を変えることで、利用者様一人ひとりに合った入浴方法にしている。		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい段原

作成日 令和4年1月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議前の意見聴取や不参加ご家族への周知が不十分。議事録の送付を行っていないので、会議内容の周知が出来ていない。	会議議事録をご家族へ送付し、会議内容の周知を図る。今まで参加していない方へ参加して頂く。	モニタリングなどで連絡を取った際に運営推進会議の説明する。2カ月に1度開催していることと、次回予定日をお伝えし、参加できそうな方は参加して頂く。	6カ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。